〔一般教養科〕

〔区 分 A〕

鹿毛 敏夫

16世紀のBungoと大友宗麟の館

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

海路（海鳥社）、第5号、pp10-22、(2007.11)

特集「九州の城郭と城下町 中世編」の巻頭論文として、近年、文献史料の分析と考古学による学際的調査が著しく進展した豊後の中世史の様相を、写真資料や図解をまじえて論じた。17世紀にオランダの地理学者が描いた日本地図と、同時期にフランドル絵画の画家が描いた宗教画に描写された日本の戦国大名像を手がかりに、16世紀の日本における九州地域の政治・文化的特異性と、当該期日本列島における政治的力学の重層性を指摘し、その内実を文献史学と考古学の双方から具体的に実証した。

〔区 分 B〕

鹿毛 敏夫

図説 大分・由布の歴史

上野淳也*¹、鹿毛敏夫*²、豊田寛三*³、ほか38名

*¹別府大学附属博物館、*²新居浜工業高等専門学校一般教養科、*³大分大学教育福祉科学部

郷土出版社、(2007.10)

市町村の広域合併が進んだ現状のなかで、新しい地域単位を見据えた地方史像の構築をめざし、九州北東部の大分・由布の2地域を同一の文化圏としてとらえた新しい図説歴史書を発行した。原始・古代・中世・近世・近代・現代までの各時代項目に加え、郷土の遺産の紹介やコラム記事の挿入により、専門家だけでなく一般にもわかりやすい図説概説書をめざした。98項目の歴史事象を41名の執筆者で分担し、写真資料をふんだんに使った新しい地域像が提示できた。

〔区 分 C〕

尾崎 司郎

基本動詞“Give”に関する一研究（2）

尾崎司郎*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第44巻、pp49-58、(2008.2)

基本動詞Giveの使用頻度は高い。外国語として英語を学習している者にとって、Giveの口語表現を身につけることが必要である。そのためには、できるだけ多様な表現例に接することが必要である。本稿は、今まで収集した用例で、Giveの目的語として用いられている語彙を、意味・内容の観点から次の9項目に分類し、まとめたものである。①意見・助言等②叱責・困難・苦痛・冷遇等③試し・機会等④休憩等⑤自由・選択等⑥パーティ・公演・講義・記者会見等⑦作物・成果等⑧称賛・信用・信憑性⑨色・価値・性質等

鴻上 政明

英語諺収集（2）

鴻上政明*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第44巻、pp.59-68、(2008.2)

英語の諺のうち昆虫、魚類、鳥類、爬虫類を収集し分類した。収集例の半数以上が鳥類であったので、英国では鳥類との関わりが密であろう。

1. bird の類例が41例と一番多い。

Birds of prey do not flock together. 両雄並び立たず。

The early bird catches the worm. 早起きは三文の得。

2. fish の類例が36例と二番目に多い。

A clear stream is avoided by fish. 水清ければ魚住まず。

Never do a fish till it's caught. 取らぬ狸の皮算用。

3. flyとgoose の類例が22例と三番目に多い。

A fly even has its anger. 一寸の虫にも五分の魂。

To kill two flies with one flap. 一挙両得、一石二鳥。

All his geese are swans. 親の欲目。

Goslings lead the geese to water. 負うた子に教えられ浅瀬を渡る。

鹿毛 敏夫

よみがえる中世の豊後府内

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

電気新聞、地域版第74号、(2007.12)

日本電気協会編集の同新聞の特集のなかで、中世の15・16世紀にアジアに開けた国際都市として繁栄した豊後府内の都市像を、写真と復元想像図をまじえてわかりやすく紹介した。現存する古文書史料の分析により、16世紀末に5000軒の町屋を有したと記録されている豊後府内では、都市の中心部に広大な大名館が立地し、その土塁築地塀面を基本軸として、南北方向に4本、東西方向に5本の大路・小路がのびて町屋が形成されていた。発掘調査では、国内はもちろん、中国や朝鮮半島、更にタイやベトナム等の東南アジア諸国からの輸入陶磁器が確認され、また、文献史料の分析からも、中国の浙江省や江蘇省からの渡来系技術者の活動実態が証明されている。

鹿毛 敏夫

アジアから見た豊後大友氏

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

大分合同新聞、(2006.6.17～連載継続中)

九州の戦国大名大友氏が活動した15・16世紀は、世界史上の大航海時代に相当する。この時代、西日本各地の地域権力は、日明・日朝関係を軸に自らも主体的なアジア外交を展開し、東アジアには環シナ海交流圏とも呼べるマクロな文化圏が形成された。海域交流史における近年の活発な研究蓄積の成果を一般向けに広く還元するために、新聞紙上の連載企画として、中世日本の歴史をアジア諸国との関わりをなかで叙述する記事を昨年度に引き続き執筆した。今年度分の連載は、以下の22テーマ。4/15「大内家を継いだ弟義長」、4/22「日本人町と唐人町」、5/13「唐人町の職人たち」、5/27「府内の津・浦・浜」、6/10「史実とドラマのはざま」、6/24「時代劇制作と台本」、7/8「珍重されたべっ甲の酒杯」、7/22「海竹の贈り物」、8/5「府内とホイアン」、8/26「世界遺産と日本橋」、9/2「中世の都市と川」、9/30「小舟と市と河原」、10/14「中世の職人町」、10/28「中国廈門に現れた日本船」、11/18「中世の天秤」、12/2「銀と天秤」、

12/16「狩野永徳 幻の花鳥図」、1/6「材木輸送と川」、1/20「奇妙な水差し『クンディ』」、2/3「鹿児島と大分のザビエル」、3/16「千年都市・府内」、3/30「川からの中世都市」。なお、連載は次年度以降も継続予定である。

木本 伸

ベル『フランクフルト講義』(続)

木本 伸*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第44巻、pp11-23、(2008.2.20)

フランクフルト大学で行なわれたドイツ戦後文学をめぐるハインリヒ・ベルの講演記録の邦訳である。全4回の講義のうち今回は後半の2回を訳出した。

野田 善弘

遠藤石山「大学提綱」訳注稿(一)

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第23集、pp93-107、(2007.5)

遠藤石山(1832-1907)は、明治時代に愛媛県新居浜市に漢学塾「稽崇館」を設立し、地域の教育に大きな貢献をなした儒学者である。本稿は、その漢詩文集『石山遺稿』(新居浜市立図書館蔵)に収められる「大学提綱」の第一章から第三章までを訳解したものである。また、冒頭に「訳者解題」を付し、遠藤石山の人と思想について簡略な説明を加えた。

野田 善弘

遠藤石山「大学提綱」訳注稿(二)

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第24集、pp135-147、(2007.10)

本稿は、前稿に続き、遠藤石山「大学提綱」の第四章から第十章を訳解したものである。

野田 善弘

中国の史学について(二) - 銭穆『現代中国学術論衡』訳注稿

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要 第44巻、pp84-92、(2008.2)

本稿は、銭穆著『現代中国学術論衡』に収められる「略論中国史学(二)」を邦訳し、注釈を加えたものである。

本文において銭穆は、西洋の歴史書とは異なる中国の史書の特色について明晰に論じ、中国伝統史学の価値を再評価すべきことを提唱している。また、中国史学の分析を通じて「和合性」に富む中国伝統文化の全体像にも論及している。

なお、本稿は平成19年度科学研究費補助金(基盤研究C・一般)「柳詒徴とその周辺-東南大学知識人の発展的研究」(課題番号:19520048)による成果の一部である。

(区 分 D)

鹿毛 敏夫

中世都市の水辺空間

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成15～18年度科学研究費補助金特定領域研究・平成19年度特別研究促進費「中世港湾都市遺跡の立地・環境に関する日韓比較研究」研究成果報告書、(2008.3)

本研究は、平成15年度から18年度までは文部科学省特定領域研究「中世考古学の総合的研究-学融合を目指した新領域創生-」(代表者：中央大学前川要)傘下の計画研究として、平成19年度は同省特別推進研究として、代表者：東京大学村井章介、分担者：名古屋大学高橋公明・新居浜高専鹿毛敏夫、海外共同研究者：韓国江原大学校孫承喆・韓国放送通信大学校李領によって実施した。中世日韓の港町を歴史地理学的な視点から比較する同研究のなかで、中世都市と河川や河原の関わり、あるいは、都市と外港の関係等が明らかになり、標記論題を含めた7編の論文と、2編の資料集、および調査記録からなる本報告書でその成果を公刊した。

(区 分 E)

野口 裕子

『彩霧への道程』

野口裕子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

第44回日本文藝会大会 平成19年7月1日

『彩霧』は円地文子の最晩年の作品であり、『軽井沢』という題で連載し、単行本として上梓するに当たって改題したものである。架空の「賀茂齋院絵詞」(円地による創作)が作中で紹介されており、円地の古典受容の形式として最終段階に位置する。この『彩霧』が先行作品『猫の草子』への批評に対抗するものとして書かれたことを立証することを中心に、同氏の他の作品との関わりについて、論じたものである。

鹿毛 敏夫

アジアのなかの大友氏

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

大友研究会、(2007.9)

2008年度の論文集刊行に向けた第7回大友研究会において、守護・戦国大名船のアジア交易の実態や、中世都市における唐人の活動、および、中世唐人の日本同化の問題等を、11点の具体的史料をあげて考察した。中世日本に残された各々の記録により、日本列島の国家秩序と東アジアの国際秩序に両属した当該期大名領国の特質が明らかになった。

鹿毛 敏夫

中世豊後の「唐人」

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

九州華僑華人研究会、(2007.10)

鹿兒島市で開催された九州華僑華人研究会において、明代の中国から文禄期以前の日本社会に渡来・定

住した唐人たちが、当該中世日本社会のなかで、どのように受け入れられ、いかなる社会的機能を担っていたかを明らかにした。陳一族をはじめとした渡来中国人たちは、西日本各地の都市に唐人町というコミュニティを形成しながらも、決して孤立・閉鎖的なマイノリティー集団に没することなく、在来日本人との血縁関係を深め、近隣町人との交流も深めながら、当該期日本社会に同化していった。彼らは、自らが有する高度に専門的な能力を通して、文化・文明の先進地である中国からの技術伝道者としての社会的地位を確立していた実態を、史料を通して明らかにした。

鹿毛 敏夫

戦国大名領国の国際性と海洋性

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島史学研究会大会（広島大学）、(2007.10)

広島史学研究会の大会シンポジウムにおいて、海・都市・宗教という3つの切り口から戦国大名の領国制の特質を史料紹介し、日本の大名領国制を「陸」のみでなく「海」からの視点でとらえる試みを提示した。また、パネルディスカッションにおいては、日本と琉球、およびエジプトの16世紀海港都市の比較研究の現状と、今後の学際的研究の方向性について議論した。

鹿毛 敏夫

中世都市の水辺空間

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

科学研究費補助金特別研究促進費「中世港湾都市遺跡の立地・環境に関する日韓比較研究」研究会(名古屋大学)、(2007.12)

名古屋大学で開催された同研究会において、日本の中世都市と海・川との関係を、都市空間の内部的機能や立地、周辺環境との連関構造のなかでとらえ、その水辺空間の具体的な様相を明らかにした。河川河口の河原市に起源をもつ中世都市の例や、河口における津・浦・浜等の港湾機能の実態解明を通して、中世都市が有する親水性を具体実証した。

鹿毛 敏夫

中世末期九州の銀秤量－計屋を中心に－

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

科学研究費補助金特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」貨幣論班研究会(東京大学)、(2008.2)

東京大学で開催された同科研の貨幣論班のワークショップ「東アジア中近世移行期の貨幣事情」において、中世末期九州の文献史料に頻出する「計屋」商人に焦点をあて、中世の市や町における計量行為の具体像と、「計屋」商人出現の背景となった銀貨流通、および、戦国大名や豊臣・徳川政権による衡量制政策の特質を明らかにした。

木本 伸

ベル『そして何もいかなかった』試論、住みえない世界から住みうる世界への転換

木本 伸*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会春季研究発表会、東京大学、2007.6.10.

ハインリヒ・ベルの長編『そして何もいわなかった』の作品解釈である。

木本 伸

ベル『そして何もいわなかった』試論、住みえない世界から住みうる世界への転換点

木本 伸*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会中国四国支部研究発表会、徳島大学、2007.11.10.

ハインリヒ・ベルの長編『そして何もいわなかった』の作品解釈で、2007年6月10日に東京大学で行なった研究発表の内容を大幅に加筆訂正したものである。